

2017 年度 森泰吉郎記念研究振興基金
研究者育成費 成果報告書
研究課題名：文化大革命における「模範村」と農村社会
慶應義塾大学政策・メディア研究科修士課程 1 年

劉春陽

報告の目次：

1. 研究・調査目的
2. 档案・資料の収集と整理(2017 年 8 月 17 日-8 月 25 日)
3. 2017 年度小靳莊村訪問(8 月 29 日-9 月 9 日)
4. これからの課題

1. 研究・調査目的

本研究では、文化大革命(以下、文革)時代における中国共産党の「模範村」(中国語:典型村、様板村)政策の下で生じた農村政治秩序の変容とその影響を明らかにすることを目的とする。事例としては、主に天津市宝坻区(原宝坻県)小靳莊村を取り上げる。

具体的には、本調査の目的は中共が如何に「模範村」という統制の手法を通して、小靳莊村を「政治的模範」として改造し、それによって小靳莊村人民公社の内部における政治秩序がどのように変容したのか。档案資料と現地調査により、文革当時の小靳莊村の末端行政組織の構造と政治秩序を解明することは今回の調査の目的である。

今回の調査で収集した資料が不足であるが、冬季休暇の時間を利用し、現地の档案馆に再び訪問したいと考えている。また、今回の調査結果によって、新しい研究構想を提出できると考えている。

2. 档案・資料の収集と整理(2017 年 8 月 17 日-8 月 25 日)

2017 年 8 月 17 日から 8 月 25 日までの 8 日、档案資料の収集が展開された。今回の档案資料の収集は主に以下の3つの部分で構成された：

- ① 8 月 17 日-20 日、天津市にて資料調査

8 月 17 日に天津市図書館へ訪問し、資料検索を行った。今回の検索で獲得した資料は以下のとおりである：

- (1) 新聞記事資料。小靳莊村に関する『人民日報』の新聞記事(1974-1978 年) 13件、『天津日報』の新聞記事268件(標題検索)を調査した。

これらの新聞記事は基本的に2つの種類に分けられる。一つは小靳莊村が「模範村」として示されたことを宣伝する新聞記事、もう一つの種類は小靳莊村が「撤点(革命拠点の撤廢)」された後、小靳莊村へ批判する新聞記事である。各記事の発行時間と、これまでの小靳莊村が模範として示された過程を記述した先行研究・資料と合致していると考えられる。

一方、新聞記事の発行時間において、注意に値するものがあると思う。「粉碎四人組」の時点(1976年10月6日)と小靳莊村が「撤点」した時間帯(1976年10月15日)と基本的に合致し、両方とも1976年10月上旬であるが、小靳莊村に関する報道の出現頻度は1976年4月から減ってきた。その時間帯の前に、人民日報の報道頻度は基本的に2-3ヶ月に1回、天津日報は1日1-2件の高頻度で報道していたが、人民日報は1976年4月11日の記事を刊行した後、小靳莊村に関する報道は皆無であり、天津日報の記事の発表頻度も1週間1回に減った。この時間帯はちょうど「批鄧、反擊右傾翻案風」が盛り上がっている時間であるため、小靳莊村の宣伝を減らすことを理解しがたいと思っている。

- (2) 書籍資料。古書店、図書館を利用し、「模範村」としての小靳莊村の経験学習、宣伝本、「政治夜校」の教科書、村民が創作した詩歌集、文化・体育政策などの各方面を記述した書籍を収集した。

代表する書籍・雑誌:

詩歌集:

『天地新春我们开:小靳庄社员诗歌谱曲选』,天津市群众歌咏活动办公室,天津市群众艺术馆,天津人民出版社,1975.

『小靳庄诗歌选』,小靳庄社员,天津人民出版社,1974.12

『小靳庄诗歌选第二集』,小靳庄社员,天津人民出版社,1976.4

『十二级台风刮不倒』:小靳庄诗歌选,王作山等,人民文学出版社,1976.

「政治夜校」の教科書:

『用毛泽东思想占领思想文化阵地』—小靳庄办政治夜校等方面的经验,天津人民出版社,1975

『新三字经,三字篇』,小靳庄大队社员集体编写,天津重型机器厂基建办公室理论小组编,1974.8

『小靳庄批林批孔文选』,天津人民出版社,1974

『我国农民反孔斗争史话』,天津市宝坻县小靳庄大队理论小组,农村读物出版社,1974.12

小靳莊村民の生活を紹介する書籍、雑誌:

「小靳庄女排队员英姿」、『新体育』、新体育杂志社、1975-03

「新しい思想にあふれる社会主義の村——小靳莊」、『人民中国』、人民中国雑誌社、1975-1

『小靳庄气象新』(Hsiao chinchuang Takes On A New Look), 天津市郊区宝坻县小靳庄大队 (Hsiao chinchuang Production Brigade in Paoti Country on the outskirts of Tientsin), 天津市郊区宝坻县小靳庄大队出版社, 1975

これからの資料・書籍の整理と分析:

I 小靳莊村の村民が創作した詩歌を電子ファイル化し、テキスト分析を行う。(語彙分析、頻度分析)

II すべての「政治夜校」の教科書を徹底的に分類・整理し、夜間学校の政治教育と毛沢東思想の教育パターンを考えてみ、インタビューを参照しながら、小靳莊村の「政治夜校」はなぜ模範として選ばれたということを解明するため、当時の「政治夜校」の現場を還元したいと考える。

III 当時、村民の日常生活の内容を記述した書籍は筆者が思いがけなく獲得した資料であり、このような資料は、筆者が档案馆に調査を行う前に関心の一部となっていなかった。この部分の資料は小靳莊村が「模範村」として示されていた間、文化面と体育面の仕事が非常によく展開され、その中には、民間の歌謡(詩歌)、伝統的な戯曲(宝坻評劇、京劇、特に「样板戲(模範劇)」)は当地の民衆が仕事の合間に行った娯楽生活の一部と言って良い。また、スポーツ活動もすさまじく展開されていた。ただし、組織的なスポーツ活動は事実上、小靳莊村が「模範村」になる後、党上級の要求により組んだものであり(当時の小靳莊女子バスケットボールとバレーボールチーム)、当時の農村における文化と体育面ともに発展した「模範」を宣伝する道具である。また、当時の小靳莊村も古い風習に反対する「模範」である(例えば女性が結婚する際、結納金を返還すること)。

これから、インタビューと档案資料を参照しながら、当時村民の文化活動と風習(古い風習も含まれる)を整理したいと思う。

② 2017年8月24日、宝坻区档案局の訪問

24日～25日、宝坻区档案局に訪問した。

宝坻区档案局が提供した档案資料: 基本的に中華人民共和国が成立する前、中華民國と解放戦争時期におかれた小靳莊村が小作人村としての基本情報、最新の小靳莊村の人口、面積、交通状況などのデータを入手した。

具体的に、

『天津市宝坻县地方志』、宝坻县地方志办公室編, 2002

『宝坻县志』、天津市地方志編修委员会办公室等編著、天津社会科学院出版社, 2008

『宝坻县志』、天津市地方志編修委员会办公室等編著、天津社会科学院出版社, 2004

『宝坻县志』、宝坻县志編修委员会, 天津社会科学院出版社, 1995

『2016年宝坻区统计年鉴』、宝坻区统计局,

などの史料と統計年鑑を閲覧し、情報を入手した。

3. 2017年度小靳莊村訪問(8月27日)

8月27日に小靳莊村への訪問を開始する予定だったが、様々な原因でキャンセルを余儀なくされた。当日、筆者は村民にインタビューを行い、現在、小靳莊村は「旅行示範村」の建設を行っており、旅行業に参加する気がある村民に資金を貸し出した。しかし、村の旅行業発展計画は欠陥があるため(観光客は主に北京、天津、唐山の住民で構成されており、娯楽施設が完備ではなく、公共交通が不便であるため、ゲストをひきつけることはできない)、村民たちが大きな利益を得られないと言われた。



文革期の宣伝画(復元)が描かれている住宅

8月29日日本格的な調査を始めた。今回の調査は11日間続いた。

筆者は档案資料を参照しながら、村民の証言を整理し、村の概況を以下の通りまとめた:。

小靳莊村は宝坻区林亭口鎮に属し、鎮政府から3キロ、箭杆河のそばに位置している。

面積:1500 ムー、農地の面積:1127 ムー

人口:234 世帯、709 人(2016 年末)

現在の村落は全て唐山大地震の後に再建したものであり(村の中心は箭杆河側に4

00メートルに移動した)、南北と東西走行のメインストリートが各一本あり、南北走行の街に沿って平屋建て10行がある。

2015年、小靳莊村が「生態旅行」の示範村と「文革の記憶」のテーマパークを建てることを目指し、旅行業を発展させるために全力をあげている。2015年当時、民宿3軒、大型リゾートホテル1軒、釣り場所1箇所(面積:150 ムー)、箭杆河観光遊覧船埠頭1箇所ある。村の全体の外見が全て文革時期の様子に復旧し、「人民公社大食堂」(レストラン)が二つあり、また、元の村民委員会の用地に、小靳莊歴史記念館が建てられた。



革命「模範劇」の宣伝画とスローガン

解放前の小靳莊村:有名な小作人村である。

清代から新中国成立する前にかけて、地元住民のほとんどは、「李半朝」と呼ばれる李氏家族(「林亭口李家」とも言える)のため耕作していた。李氏家族は清代の宝坻県におけるもっとも有名な家族であり、1789年から1904年、「李半朝」家族の127人に、78人が官途に就けたため、「半朝」と呼ばれた。清代が滅亡した後、李氏は当地最大の地主であった。数名の証言によって、李氏は民国時期に、明らかな農民への搾取行為が見えないが、凶作や不況に出会うと、李氏は農民に穀物(黒豆)を貸し出し、来年農民は李氏に2倍の穀物(米、とうもろこしなど)を返済しなければならない。

解放戦争時期において、李氏などの地主らは林亭口鎮から追放された。しかし、1948年に「還郷団」運動が発生し、解放されたばかりの農民たちが武装し、家と土地を守り、地主と農民両方とも犠牲者が多数いる。現在、李氏の子孫が主に林亭口鎮寶家橋村と隣接の大鐘莊鎮に集中している。



村民の力で改造された川

また、今回の調査を通じて、筆者は2つの新しい問題点と推測を見つけた：

I 小靳莊村の「賽詩会」と模範戲の演出には自発性があるかもしれない。一部の文書と先行研究と異なり、これらの行為は党上級の注目を引くためわざと集中訓練を行ったことではなく、民衆たちは「賽詩」と演劇などの文芸活動に熱心している。

原因：林亭口鎮には評劇演出の伝統が 100 年以上に持ち、文革に入る前に、当地



村民が創作した革命詩歌

には少なくとも2つの戲班(劇団)が存在した。小靳莊村が解放前に舞台が存在し、労働している農民たちが戯曲を歌うことは非常に多く、現在まで続いており、一種の風習だと思われる。

II 政治夜校は、毛沢東思想のみを勉強することではない。夜校の最初段階においては、その名は「政治夜校」ではなく、「農業科技(科学技術)夜校」である。最も早く入学した人は各生産小隊の優れた者である。1970年代に入ると、公社の社員全体の文化レベルを向上するため、「農業科技」を学んだついでに、政治理論班と識字班を組んだ。



政治夜校の当時の風景(資料館)

5. これからの課題

今回の調査には、インタビュー調査を行い、新しい情報を入手し、新しい可能性を作り出したが、資料の不足は確かに欠陥だと思っている。

現段階で進行中の課題は以下の通り：

- ① 中国農村社会史に関する文献をしっかりと読み、読書レポートの提出
- ② これまで入手した档案資料の電子化を加速させ、音声資料の可視化をできる限り早く完成する。(現時点まで完了)
- ③ 書籍資料の分類・整理を完成させる。(現時点までほぼ完了)
- ④ 以上を踏まえ、村の伝統文化面と村民の日常生活について着力し、次回の冬季休暇で新しい現地調査を準備している。

謝辞

今回森基金の研究者育成費を頂き、現地調査を行うことができ、当時有名な「模範村」にて数多くの貴重な資料を得ることができ、現地の村民と話し合い、「模範村」の課題について私に新しい啓発を与えた。そして、育成費によってフィールドワークを実行する際に様々な方面の問題を解決することができたため、感謝の気持ちが一杯である。

また、現地調査でご協力いただいた人々に感謝の気持ちをお伝えしたい。本当にありがとうございました。